

第3回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 頂いたご意見 |
|---------------------------|------|---|
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボ池周辺に、トンボが生きていけるだけの食べるものがないといけない。トンボ池の最後の池の下にクズの原っぱを市民農園のような形で貸し出す。競馬場の馬糞などを使って堆肥をつくり、有機農法みたいなことをすると虫が増えるのではないか。 虫が飛び交うことによって、虫をトンボの成虫が食べて産卵するというサイクルをつくらないと、水をいくらきれいにしてもトンボは徐々に減っていくのではないか。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | ヨシがやせこけて生えているので、有志の方で集まって刈り取ることを考えてみたいと思う。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボ池にある蛇籠とかが朽ち果てそうになっているので、どのように再生したらいいか工法を考えながら、研究や勉強会につなげていけないだろうか。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | ニジマスは、上流では小さいが、忠節橋あたりへ行くとすごく大きくなっていて、その間にどれだけのアユをたべているのか分からないという危機感を持っていると釣り人から教えていただいたが、上流とのつながりや連携はこれからどういう構想を持っているのか。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | 上流から下流まできちんとやれるような働きかけをしてもらいたい。すでにやっているところでは、地域への働きかけだけでもしてもらいたい。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボ池は冬に干上がると聞くと、ブラックバスとかの外来魚は干上がった効果でいなくなるのではないか。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボ池を掘り下げの際に、重機を入れて掘り下げた場合、当然別な影響が出てくると思うが、そのあたりをどう考えているのか。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | 支流の緩流域再生の事業を行う場合、ブラックバスがいる状態で緩流域を増やせば、ブラックバスの産卵床を増やすことになり、結果的にブラックバスを増やしてしまうのではないか。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | 名古屋市では、東部丘陵地の方に農業用のため池というのが今100個ばかり残っていて、毎年1つか2つずつ干しながら外来種も退治するという活動をしていて、ブルーギルやブラックバスだけでなくスイレンやホテイアオイも外来種ということで退治するというやり方をしている。こういう活動をするときには、3年ほどかかってどういう手順でやっていこうということ専門家の先生たちが集まってやっている。トンボ池も、できたらスイレンを退治した方がいいんじゃないかなと思う。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | オニバス以外のスイレンは、いつごろからあったものなのか。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボ池の環境がだんだん悪くなって、トンボの数が減ってきている、一番の原因は水枯れである。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボが生きるのには、水、水辺のブッシュ、草むらが大事である。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボ池再生の緊急的な対策として池の底面を1m掘削するとあるが、このあたりのことを説明してもらいたい。本対策としても水の供給についても説明してもらいたい。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボ池再生の対策は、何カ年計画で、どのぐらいのスピードで行うのか教えてもらいたい。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボ池にあるポンプはたしか使えるはずなので、使わないといけない。池にとって、鉄・マンガン・リンはすごく厄介なので絶対使ってはいけない。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボ池に隣接するグラウンドから塩化カルシウムを含んだ土砂がトンボ池に入り込んでいて、それが一番生態的にトンボ池に与える影響が大きいと思う。 グラウンドの水をどこかで沈殿させて木曾川へ流していくというシステムを設ければ、トンボ池の水はもっとまともになるのではないかなと思う。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボ池の周辺にはクズとイバラが群生していて、そこにいる水生生物が枯れてそのまま放置されている。その状況の中で多様な生物が生息するのは不可能に近い。 市民活動の中で、もう少し池の周りをきちんとしていかないと、どうしても枯れたものを池の中にいつまでも置いておくということは、酸欠になってしまう。 |

第3回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | | 開催場所 | 頂いたご意見 |
|-----------------|--------|------|--|
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | 会場での発言 | 岐阜会場 | できるだけ手をかけなくてもいい環境にするにはどうしたらいいかという、人的なものをいかに削減していくかということじゃないか。だから、沈殿池にするのか、それともトンボ池にするのかということ、もう少し地域で話し合わないと国交省が一生懸命頑張っても限界がある。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | 会場での発言 | 岐阜会場 | 長良川と境川の合流点で樹木伐開の現地を見学させていただき、意見を出してくださいということで意見を出させていただいた。見ても、発言を言っても、結局根っこから全部とってしまう。こんな状況で意見を言っても何になるのか。もっとまじめに考えていただきたい。1本の木でもいいから残していただきたい。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | 会場での発言 | 岐阜会場 | 中州的な場所というのは生物のえさととり場にもなっていて、少しでも中州に木が残ればいいなと常々思っている。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | 会場での発言 | 岐阜会場 | 伐開の地図を見ますと、木曾川の中濃大橋のところが伐開地域になっているが、ここに宿り木がついた木がある。この宿り木には特殊な鳥がえさとして利用していて、可児市の中に2カ所ある。全部切ってしまうと、もうその鳥は来なくなってしまいますのでそういう特殊な木だけは残していただくというような配慮をお願いしたい。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | 会場での発言 | 岐阜会場 | トンボが飛ぶための空間をつくるために樹木を何でも切ってしまうということではいけないので、樹木を切るときはぜひ私の意見を聞いていただきたい。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | 会場での発言 | 岐阜会場 | 「堰上げ」という言葉を盛んに使われている。「堰上げ」という言葉は、うっすらと水面を上げるという意味のことだろうと分かるが、一般市民の方々にも配付するような資料であれば、分かりやすい言葉で「水面が上がる」と単純に書いた方がよいのではないかと。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | 会場での発言 | 岐阜会場 | 川に関する取り組みをされている方に、会場にある地図を印刷して配布してはどうか。そうすれば、10年でも20年でも地図を見ながら川の活動に取り組める。この計画は5年ごとに見直していくということだから、初めの資料がないことには、見直されたときには前は何かだったかということになる。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | 付箋紙 | 岐阜会場 | 自然公園の設置を希望する。(土地代無料でもいい) 下中屋町内地主【木曾川右岸47kp付近】 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 外来魚駆除は、エサ釣りが最も効果が高いと思います。投網、水抜きは、在来魚へのダメージが大きいと思います。エサは、オキアミが良いと聞いております。びわ湖では、海釣の竿にオキアミをエサとして駆除する団体「外来魚バスターズ」が活動しています。ルアー釣りなどとは釣果は比較になりません。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 木曾川支流の可児川周辺に住んでおります。今日のセミナーで観たり聞いたりしたことを自分のテーマとして可児川でできることに取り組んでいきたいと考えております。今後、ご教示・ご支援を願うこともあると思います。よろしく申し上げます。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 外来魚の駆除活動については、全国豊かな海づくり大会の関連の行事として、岐阜県下で広く実施し、大会終了後もその活動のネットワークが永く続くようにできれば良い。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 「トンボ池の泥から何の植物が生えるか」の話は面白い。今度、私も取りに行き子供と一緒に観察して楽しみたいです。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 貴重種を売買目的で採取する人がいるが、この対策を何とかできないか。少なくとも看板を設置して見つけた場合は、罰金・罰則等を明示するだけでも効果があるのではないかと。マスコミを通じた啓蒙も必要だと思う。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 自然再生をキーワードとする書籍を、このセミナーの成果品としていつか出版してはどうか。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 休日の開催もこれまで通り行いつつ、平日の開催も折り混ぜると面白いと思う。意義深い内容であり、産官学のメンバーが業務の一環として多く集まる可能性もある。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 本日のセミナーに多くのNPOや地域の活動家の方が参加され、それぞれ貴重な意見を言われている。このNPOを統括する組織を立ち上げ、行政の情報、NPO個々の情報・交流の提供等を行う事により、自然再生の協働とつなげて行く。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | セミナーの報告をふれあい懇談会を実施した市町村に掲示する事により、さらに多くの住民参加ができ、上記活動につなげる事ができる。HPだけでは一部の人のみしか参加できない。 |

第3回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | | 開催場所 | 頂いたご意見 |
|-----------------|-------|------|---|
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 資料を少なくしてもらいたいです。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 今後、持ち帰り考える資料があるといいのではと思います。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 外来魚の駆除は続けていかなくてははいけない。 長良橋下のドッグで子供たちがルアーで50cm位のオオクチバスをつありあげている。かなり大きな物が生息している。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 官民一体でたいへんよい。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 自然と共生することは大事な事と思います。私達も河川敷内に遊歩道を作るプロジェクトに参加し、汗を流して作業を行い計画どおり完成させる事ができました。我々の行為は自然再生計画の一端ですが、地域環境によって様々な取組が有り、またその必要があることを今日改めて感じたところであり、有意義な時間を持てたと思います。今までの行為をこれからも自信をもって続けたいと思います。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 我々、成人ももとより、小学生のためのセミナーを開いたらいいと思う。小さいときから、自然に関して教育の場を提供すべきである。笠松のトンボ池は話しは聞いていましたけど、広大な土地で池も数多くあり正直言って驚きました。もっと公園として整備され、自然との共生するための研究室や研修室を備えたらいいと思う。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 岐阜県の木曾三川の問題点などをもっと知りたいので、専門家によるシンポジウムを開催して、より多くの人に参加できるような企画を立ててほしいです。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 地元の意見を取り入れ、協力しながら行う。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 各所のボランティア活動を利用する。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 大変参考になった。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 本3/14ふれあいセミナーに参加 相肉の天候だったがとてもいい見学会とセミナーでした。特に名古屋から参加した事で道中、木曾川と長良川の水位上昇の時間差をまのあたりに出来たことそして見学移動中水位が上がったため、水中から多くを樹木がおぼれないよう背伸びしてる様は伐開の必要性を十分知らせてくれました。要はほどほどにと言う事だと思います。必要なものを厳選し、残す物は残す事です。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 伐開は何年毎を見込まれてるのでしょうか。10~20年最長30年としてそこから発生する木質資源を自然環境改善に有効利用する方策をとって頂く事を望みます。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 展示されていた三川の全体整備計画図面について、私はインターネットしてないので見る事ができません。とりわけゾーニング以外の細部についても詳しく知りたいです。A4サイズにコピーして是非入手したいと切望しています。よろしく願います。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | とても上手にやられてると思いました。沢山の人が集り意見交換もできました。もっと時間がほしいくらいです。このセミナーがアライバづくりが終わらせないように願います。 |
| 第3回木曾三川ふれあいセミナー | ご意見用紙 | 岐阜会場 | 名古屋ではCOP10を控えてこの機に自然環境改善への取組を活発に行ってます。特に小・中・高・大の学生への環境教育が見直されています。まずは情報発信が大切かと思います。 |

第4回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|-----------------|---|---|
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | オオキンケイギクの駆除について | 最適な駆除手法はあるのか。 | 手で刈り取る方法がベストです。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | オオキンケイギクの駆除について | 焼却処理できないのか。 | 可能です。昔の野焼きを行う方法でも良いと考えます。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | オオキンケイギクの駆除について | オオキンケイギクの繁茂対策として、10年、20年のスパンで、芽が出てきたら、それを手抜きで抜根するという方法をとらなければだめだが不可能だと思う。一度全て焼却し、その後に河原植物を植えてはどうか。 | 駆除対策については、様々な手法があるため、駆除区画を細分し、適切な方法を実施していきたいと考えています。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | オオキンケイギクの駆除について | 庭先にオオキンケイギクを植えていること等については、除去すべき対象であると周知徹底する方法を考えるべき。手近な所から駆除するのが良いのではないかと。 | 現在、特定外来種の駆除等については事業予算化されておらず、抜本的な対策に至っていません。今後の駆除・防除について地域の皆さんと議論していきたいと考えています。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | オオキンケイギクの駆除について | オオキンケイギクについて3年前くらいから防除しているが、年々増え続ける一方である。何かいい方法はないかと思っている。 | 草刈を行う際の移動にはパッカー車を使用し、刈り取った草は熱処理を行って堆肥化を行う事により、拡散を防いでいます。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | オオキンケイギクの駆除について | 除草のタイミングがオオキンケイギクの開花時期と合っていない。除草工事の早期発注、細分化するなど、もっと迅速な対応や集中的な除草はできないか。また、オオキンケイギクの防除イベントなどを行い、外来種に関する啓蒙活動をしっかりおこなってほしい。 | 花の開花時期が短いため、発注による対応は難しいです。広報活動については、継続して行っていきたいと考えています。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | オオキンケイギクの駆除について | 資料によると木曾川でだけ外来種が多く発生しているが、なぜか。また、外来種のサンプリング手法や計測機器に関する詳細が知りたい。 | 木曾川だけに多く発生しているとの認識はありません。資料表記の問題です。サンプリング手法はかなりの多い個体を測っています。統計的にも検定できるぐらいのサンプリングはとっております。測定機器はノギス等です。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | オオキンケイギクの駆除について | かさだ広場にオオキンケイギクが外来種であるという看板を設置したかどうか。 | 国土総合技術研究所が実施しているオオキンケイギクの植生管理実験については、案内のため看板（A4サイズ）を設置しているところです。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | オオキンケイギクの駆除について | H18に各務原市の「オオキンケイギク祭り」が中止されましたが、逆に外来種防除祭りとしてはどうか。 | ご意見承りました。現在最適な駆除方法及び駆除イベントを検討しております。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | オオキンケイギクの駆除について | 意見を聞いて思ったことは、行政が真剣に防除しようとしていないということ。たとえば草刈りを短期間でやっては？という意見に対して、難しいみたいな回答を管理課長が答えていたが、何が難しいのか。業者はいくらでもいるからできないわけがない。やる気がないだけ。そもそも外来生物が問題になって数年たつのにまだ実験とかいっていることが生ぬるい。本当は、あまり問題とっていないからだと思う。失望です。 | |

第4回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---|-------------|---------------------|--|---|
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | オオキンケイギクの 駆除について | オオキンケイギクを広めない様にする為には、種が落ちる前に刈取る必要があるが、除草工事の経費が高くなると思われる。その為には一般の人々に理解を得られる様、広報を行うと良い。近年 広報費が浪費である様に言われているが、必要な広報はしっかり行ってほしい。 | ご意見承りました。現在最適な駆除方法及び駆除イベントを検討しております。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | オオキンケイギクの 駆除について | クリーン大作戦と同様に外来種廃除活動を実施していけば少しは減少する。 | |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | オオキンケイギクの 駆除について | 川本来の生態系を維持することは困難な状況にある。外来種の除去にも限度があり、生物の生活史を明らかにして、在来の昆虫類で除去させる研究を進め、在来種の河川にして欲しい。 | 外来種の駆除については、生物の多様性の確保の観点から、外来種への適切な対応が必要と考えています。地域の皆様の協力をいただきながら対応を考えていきます。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | 自然再生計画について | 木曾川の笠松付近では、川底の砂利がなくなり、砂地になってしまい、アユなどの魚が砂利につく藻を食べて育つ魚が育たなくなっています。 ①川の堤防や、②河川敷、③水量も大切ですが魚のためには、川底の環境も目には見えませんが研究対象にしていただきたい。 | 河川の自然環境に関する基礎情報の定期的、継続的、統一的な調査として「河川水辺の国勢調査」を実施しています。この調査は、河川内の魚類や底生動物にも着目した調査を行っています。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体 験館 | 自然再生計画について | 河原植物の再生というが、どのような種類を指すのか。 また、その選定方法や優先順位をどのようにつけるのか。 | 河原植物は、砂礫河原の環境を生息場とするカワラサイコ、カワラヨモギ、カワラハハコ等です。河川内は草地化、樹林化が進行し河原植物が生育できる環境が減少しており、河川工事に合わせて環境の改善を検討していきます。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | 河道内樹木について | 樹林化した河川を早急に何とかすべきと考えます。治水面から見て不安感はありません。 | 河川の樹林化は広大な面積になっており、伐採の必要性について優先度をつけ、伐採を進めたいと思います。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 木曾川サイクリング 利用改善 アンケート | 水辺共生体 験館 | 自然再生計画について | 木曾川サイクリングについて素晴らしい計画であると思いますが、河川景観や人と人のふれあう親水空間を活かすという今後の方向性から、南派川への導水をお願いしたい。現在は水流が不足しており、よどんだ水となっているため最低でも流れ（サラサラ）がある状態にしてほしい。 | 南派川は、樹木の繁茂が著しく、河川景観や親水性に課題がある状況となっています。このため、ご指摘のとおり、南派川への流水頻度を増加させ、砂礫河原の再生と河川景観、親水性に配慮について自然再生計画の策定にあたり検討を進めます。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体 験館 | 木曾川サイクリング について | レンタサイクルには子供用はあるのか。 | 子供用自転車も用意してございます。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | 木曾川サイクリング について | レンタサイクルのコースの中に史跡等の名所・旧跡等に看板が設置されていて自転車導線でスタンプラリー（歴史コース、花コース、観光文化施設コース等々）を実施してみたら | ご意見承りました。現在、周遊マップを作成中ですので、今後の参考にさせていただきます。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 木曾川サイクリング 利用改善 アンケート | 水辺共生体 験館 | 木曾川サイクリング について | ガイドツアーを開いてはどうか。 | |

第4回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|--|-------------|-------------------|---|---|
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体 験館 | 木曾川サイクリング について | 河川敷にサイクリングロードや遊歩道が整備されれば、簡単にマラソンコースなどができる。上下流が連携して、ツール・ド・木曾川として河口まで行けることが夢じゃなく、実現できそうだと思っている。 | ご意見承りました。近隣の市町のご支援・ご協力なしにはできないことですので、その旨、近隣市町へも伝えたいと考えております。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体 験館 | 木曾川サイクリング について | サイクリングロードを犬山を終点とするのではなく、もっと以北の美濃加茂等まで伸ばしてもらいたい。 | |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 木曾川サイクリング 利用改善 アンケート | 水辺共生体 験館 | 木曾川サイクリング について | サイクリング大会等のイベントを定期的に開催してはどうか。 | |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 木曾川サイクリング 利用改善 アンケート | 水辺共生体 験館 | 木曾川サイクリング について | もう少し良い自転車（スポーツ車）をいれてほしい。 | |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 木曾川サイクリング 利用改善 アンケート | 水辺共生体 験館 | 木曾川サイクリング について | 安全対策は十分配慮してあると思いますが、安全・安心できるコース整備をお願いします。 | |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 木曾川サイクリング 利用改善 アンケート | 水辺共生体 験館 | 木曾川サイクリング について | 利用していません。今後、孫と来ます。 | よろしく申し上げます。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | ふれあいセミナーに ついて | ふれあいセミナーを定期的に開催してください。 | 年数回、タイムリーに開催していきたいと考えています。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | ふれあいセミナーに ついて | 一般住民らの声を聞き「川づくり」に取り組まれているのが良い。但、こうした「セミナー」等の開催案内手法が充分であるかは疑問 | 予算縮減のなか、広報費も例外でないため、ほとんどが職員の手作りで実施しておりまして、メディアを活用した大規模な開催案内を行うことはできませんが、開催時期、開催場所、効率的な広報などを検討し、よりよい意見交換ができるようにしたいと思います。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | ふれあいセミナーに ついて | 休みにも係わらず、役所の人が頑張っておられることにエールを送ります。 | ありがとうございます。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | ふれあいセミナーに ついて | 公園事業説明はわかりやすいが、改修事業の話も入れてみたらと思います。水制・護岸工事はこのように実施して堤防を守る。また、排水機場もシステムを理解してもらうことも必要。 | 今年度は環境をテーマにふれあいセミナーを進めておりますが、トピックス的な公園事業の説明や主な改修事業などについても今後テーマとして検討したいと思います。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | ふれあいセミナーに ついて | 木曾川だけの川づくりが多くクローズアップされ、本日のセミナーも木曾川が主体の内容であった。今後、長良川、揖斐川の川づくり対策の検討会開催を考えてほしい。 | ご意見承りました。次回、木曾川上流自然再生計画など木曾三川全体の説明を予定しております。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体 験館 | 地域活動について | 各自自治体が共同で活動していくことが大切だと思う。 | その通りだと思います。ふれあいセミナーにも県・市町の方々も参加していただいております。活動が大きく広がることを期待しています。 |
| 第4回木曾三川ふれあいセミナー 木曾川サイクリング 利用改善 アンケート | 水辺共生体 験館 | 地域活動について | 木曾川と言いながらルートを見ると「堤内」や「公園」めぐりである。当地域の治水の歴史は古く、これらの施設めぐりと、河道内樹林、本日の河原植物の事もあり、高水敷等に遊歩道を造り、NPO等に維持管理をまかせる事により、より良い環境（市民と川とのふれあいも含め）が構築されると思う。 | ご意見承りました。可児市で遊歩道の整備・維持管理を市民団体の方々に実施していただき、良い環境が維持されている事例もごさいますので、今後の参考にさせていただきます。 |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|------------|---|--|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 戦後、川というものがどう変わってきたかという環境問題について、いろいろ反省をすることが、これからの計画を立てる上で一番大切だと思う。 自然再生計画の委員に本当に自然を知っている人を加えないと、きちっとした再生計画ができないと思う。 | 自然再生計画の策定にあたっては、川の変化あるいは川の変化が自然環境に与えた影響に着目し、計画づくりを進めています。 「木曾川上流自然再生検討会」では、河川工学だけでなく、河川生態、鳥類、哺乳類、魚類、昆虫類、植物を専門とする委員の方々のご意見を伺いながら検討を行っています。 また、自然再生検討会の詳細な資料につきましては、木曾川上流河川事務所のホームページ、もしくは、事務所で閲覧が可能ですので、ご覧頂けると幸いです。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 河原の部分については随分書いてあるけれど、川の中については書かれていない。 | 今回、第5回ふれあいセミナーでは、主に今後の整備の内容について説明をさせていただきました。川の中の状況については、第1回・第2回木曾川上流自然再生検討会に資料がありますので、詳細な資料につきましては、木曾川上流河川事務所のホームページ、もしくは、事務所で閲覧が可能ですので、ご覧頂けると幸いです。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 湿地帯をつくろうということで行われた河道掘削後に湿地帯やワンドが出来つつあり、魚や植物も増えてきていると思う。 今後、河床掘削はとにかく深く掘り下げれば良いという前提だけでなく、このようなことをあちこちでつくってほしい。 また、揖斐川河道掘削のワンドは残してもらった事もある。今後も地域住民を立ち合わせ意見を聞いて欲しい。 支流牧田川の瀬切れが進んでいる。生態系の面からすると大変問題も多い箇所だと思う。治水を進められる中で配慮と、地元への説明や、現状を見る場を設けて欲しい。 | 河道掘削等の改修にあたっては、流水を安全に流すための工事に合わせて、ワンド等の水際湿地など多様な環境が形成されるよう配慮していきます。今後も、地域住民の皆様のご意見等を踏まえながら、良好な河川環境が保全・形成されるよう努めていきます。 牧田川につきましては、毎年瀬切れ等による河川環境の課題があります。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 鮎が小さくなったという話があったが、木曾川のダムがあって、砂礫河原は再生しない。砂礫河原の問題は、河川毎によっても違うのではないか。出来ること出来ないことの区分けが必要ではないか。 | 砂礫河原の問題は、木曾三川共通の課題となっています。河道掘削工事にあたっては、砂礫河原にも配慮して施工していきます。 |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|------------|---|--|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>自然再生計画はいつからいつまでの計画か教えて欲しい。 また、やることが沢山のっているが行程表を付けて欲しい。 揖斐川水系については、床固や堰、瀬切れということで、魚がだめになっているという話がありますが、もし今そうであれば、上流のダムからよその川へ水路をつくって水を送るのは逆行と思う。 トンボ池に新境川からパイプで導水してはどうか。井戸は無駄ではないか。</p> | <p>自然再生計画は、当面の整備の方向性についてとりまとめるものです。また、自然再生計画の中では詳細な行程表は記載しません。 揖斐川本川・根尾川については、H15年度から当事務所が管理する床固について、魚道の整備を実施してきておりH21年度で一連完成し、床固の遡上が可能になる予定です。 根尾川、牧田川の瀬切れについては、課題であると認識しています。 トンボ天国の水涸れ対応については、新境川からの導水についても検討項目の一つとして考えていきます。</p> |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>【自然再生の整備メニューについて】 国の自然再生計画であれば、国のレベルの計画にふさわしい内容にすべきです。計画列挙されている整備メニュー①～⑤は、実際の木曾川などに存在する課題に比較して、極めて優先度の低い項目です。 <優先度の高い課題の内一例をあげれば> ※現在木曾川の場合、馬飼頭首工の魚道は、ウナギの稚魚が遡上できません。その理由は、特定の魚種（アユ・サツキマスなど遊泳速度の速い魚）しか遡上できない構造で「シラスウナギ」などは遡上できません。 堰の下流で川鵜の格好の餌になったり、上流で豊富な採餌が出来ず、成育の機会を失う天然のウナギ資源の損失は、数百トン／年にも及ぶ膨大な量で、抱卵した成魚を海に返せない機会損失は資源の枯渇にもつながり大きな環境問題です。 ※昭和50年台まで、アユの友釣り漁場として全国的にも有名で、多くの友釣り客の訪れた美濃加茂市内の木曾川で、近年は昭和30年代比10%程度の天然アユの遡上はあるものの、殆ど成長できず、今は釣り人の姿がありません。 この直接原因は、主として以下の3項です。 （イ）アユの主食となる珪藻の貧弱化で、この要因として最も大きいものは、流域に連続して出来たダム湖より、せせらぎが減少し、水の活性度（水に溶け込む酸素量など）の低下の影響が最も大きいものと考えられます。 （ロ）珪藻は、高水位時、土砂の流下で起きる川底の研磨が、良質の珪藻の牧場となるが、土砂の流下が少なく藻・草などが繁殖して珪藻の繁茂出来る面積が、著しく減少している。 （ハ）珪藻は、水と太陽によって繁茂するが、上流部のダム湖の濁水・揚水型発電ダム湖等の長期にわたる濁水などによって日光が遮断され、流芯（水深の深い箇所）に良質の珪藻が繁茂できず、アユの棲める有効面積が激減している。 ※この様な川の事象を正しくすることが、再生を始める第一歩です。</p> | <p>河川環境整備の優先順位の考え方は、 ・現存するが劣化している河川環境や、喪失した河川環境の再生を行う。 ・希少種が生息し、かつ環境劣化の進行が著しいなど、早急な対応が必要な箇所を優先的に実施。 ・優先度が低い箇所については、調査等監視を継続し、必要に応じて保全又は再生の対策を講じる。以上のように考えております。</p> <p>上記の3点を基に、希少種保護などを急ぐ必要があり、木曾川北派川のトンボ池等の湿地環境の再生、木曾川左岸中流部などでワンド等水際湿地の再生、揖斐川・根尾川における河川の連続性確保（H21完了）を優先して施工していきます。また、治水対策（改修工事、維持管理工事）においても河川環境に配慮した工事を実施していきます。</p> |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|--------------------------|---------|------------|--|--|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>【自然再生検討会（6名）の委員について】</p> <p>自然の動植物の目線がない？広い流域の現場をしらない？自然の川（現場）を知るものとの討論会でもやれば、メンバーに不足のものが明確になるとと思います。</p> <p>木曾三川の再生検討会などに、自然の動植物の目線を持つ者を入れないと本当に河川環境の再生に有効なものが顕在化されません。</p> <p>※自然再生の言葉・経緯</p> <p>昭和48年「環境六法」の中で、「人間が自然に係わる基本的な国の考え方を示している」を受け、平成14年自然再生推進法では、自然に係わる行政の積極的な役割・施策と、その責務にも触れている。木曾川上流自然再生計画は、この流れの一環と理解しています。川を再びよみがえらせる為には、失ったもの・変わったものを可能な限り顕在化して、対策・手立てには優先順位をつけ、実施するのは世の常識です。これをしないと血税の無駄遣いになります。</p> <p><無駄遣いの典型的な一例></p> <p>美しい「山河を守る災害復旧方針」の考え方を示すところで、「コンクリートのない川づくり」「コンクリートが見えない川づくり」の表現があります。このような川を人間の目線で作っても魚は喜ばない。川づくりの規範にするものが、川の生態的機能を知らぬところで創られると、県・地方の事業で大きな無駄を生むこととなります。</p> | <p>「木曾川上流自然再生検討会」では、河川工学だけでなく、河川生態、鳥類、哺乳類、魚類、昆虫類、植物を専門とする委員の方々のご意見を伺いながら検討を行っています。また、木曾三川ふれあいセミナーなどでも、地域の方々からいただいた意見を自然再生計画に反映させていこうと考えております。</p> <p>また、優先順位につきましては、現存するが劣化している河川環境や、喪失した河川環境の再生を行うこととし、希少種が生息し、かつ環境の劣化が著しいなど、早急な対策が必要な箇所を優先的に進めていきたいと考えております。</p> |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>【川づくりの位置付け】</p> <p>※山の一滴～海まで、この流域を通して河川環境を（国交省又は環境省）一元的に管理するのが一番好ましい。</p> <p>「今の体制の中で何が出来るのか」ではなく、必要なことを成すためには組織の壁の弊害も乗り越え、どのような仕組み・体制・手順が必要か・・・の発想で物事に取り組む必要があります。</p> | <p>ご指摘のとおり、木曾三川の中流部は国土交通省、上流部は岐阜県で管理を行っています。</p> <p>自然再生計画は流域全体の皆さまの意見をいただき策定した「河川整備計画」を基に策定します。</p> <p>関係する行政とのさらなる連携が必要であると認識しています。</p> |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|--------------------------|---------|------------|--|--|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>「自然再生計画」ですが現況把握や課題設定、計画・構想など大枠はよくわかりました。が、具体的な計画や再生実行のことが今ひとつわかりにくいと感じました。</p> <p>原案説明ということで今は無理でも段階を踏んで具体的な説明等を行うと”意思表示”されることで河川管理者の意欲が伝わり理解（期待）と共感が高められると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に対する国、県、市町等の行政の役割、推進するための組織化 ・住民に理解と協力を期待する具体的な事柄 ・年次、地点等が入った行程計画の開示予定 ・目標数値等が入った計画、評価方法の開示予定 etc <p>5回目ということでしたがその辺が見えない住民参加者の苛立ちを感じましたが。</p> | 自然再生計画の策定にあたっては、よりわかりやすい計画づくりに努めていきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 身近な点の自然再生計画は理解できたが、源流から一体となる取り組みも考えていただきたい。(ex:流砂系の一貫化) | ご指摘のとおり、土砂の減少等、流砂系に関わる課題は、流域全体を対象とした重要な課題であると考えています。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 牧田川の瀬切れ対策ならびに魚道整備はどのように考えていますか。 | 牧田川の瀬切れや床固により連続性の課題については、河道計画を検討するなどしていきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>自然再生計画の目標が何を言っているのか理解できない。木曾川らしい自然環境とは何なのかわからない。それをどうするのかわからない。どうやって自然環境を保全していくのか不明。</p> <p>南派川は私の子どもの頃から水が流れていないのでいまさら流す必要はあまり感じない。138タワーの公園のために流すのでしょうか。</p> <p>30～40年前に比べて川の水はきれいになっており、環境も改善されています。ただ、昔はホタルがたくさんいたようなので、ホタルがいるような環境にすることを目標にしてもらいたい。</p> <p>自然再生計画にオオキンケイギクの事には何もふれていない。駆除するのをやめたのか。</p> | <p>自然再生計画の策定にあたっては、よりわかりやすい計画づくりに努めていきます。</p> <p>オオキンケイギクについては、特定外来種であり駆除・防除していかなければならないと考えています。木曾川上流河川事務所でも、鋭意努力してまいります。地域の方々の協力は必須と考えております。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。</p> |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|--------------|---|---|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 河川改修について | 第1回のときに申し上げたことが、全然どこにもない。大変残念だと思う。 今渡ダム下流左岸2kmぐらいは崩落の危険性がある。対応して欲しい。 | 木曾川水系河川整備計画にも記載がございますが、木曾川左岸68.4k~69.0kは今後、堤防+高水護岸整備を実施する計画になっています。 第1回ふれあい懇談会（平成18年7月16日）でいただいております石畳周辺の崩落については、施設管理者の可見市に伝えてあります。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 付箋紙 | 水辺共生体験館 | 河川改修について | 木曾川中濃大橋上流左岸「堤防危険」 | |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 特定外来魚対策について | 外来魚の捕獲駆除する方法で科学的な部分の支援はないか。 抜本的対策方法はないのか。 | 外来魚の駆除については、ダム湖（伊自良湖等）や小さい湖沼などについては実績があると聞いておりますが、河川などの流水区間における完全な駆除方法は確立されていないと聞いています。ただ、ブルーギルやオオクチバスは、支川流入箇所など流れが緩やかな箇所を産卵適地（水温が20℃を超える春ごろ、水深が浅い砂泥または砂礫底）としており、そこに移動してきた親魚を捕獲する手法や、産卵床に砂をかけて破壊する等の手法が局所的な対応ですが各地で実施されていると聞いております。 木曾三川において今年から、NPOや地域住民の方々が特定外来魚駆除活動を進めていただいております。このような活動が流域全体に広がるように協力していきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 特定外来魚対策について | もんどりの他に時期が限られるが、人工産卵床による駆除もある。 | 人工産卵床も有効な駆除手法です。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 特定外来魚対策について | 外来種対策は、国土交通省はじめ国策で多少お金をかけても良いのではないか | 外来種対策は関係機関や地域の皆様と協力を図りながら進めてまいります。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | 【川づくりに対する・行政の姿勢】 ※市民に言わせる場から、市民の声を聞く場にすべきです。 市民の声を「ガス抜き」と称する・扱いは、手弁当で参加する市民を愚弄するもの（現）木曾上でも上層部にこの思想あり。 | ご意見承りました。木曾三川ふれあいセミナーは木曾三川の川づくりに関して地域住民の方々と行政が情報共有することを目的としています。そのため、いただいたご意見などは木曾川上流河川事務所のホームページで公表しています。また、ふれあいセミナーの開催手法も含めて、今後の参考にさせていただきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | 【川づくり半世紀の反省会（仮称）の開催が必要です。】 山野を含め、河川流域で動植物と広く係わった人には、人間の行った種々の環境負荷が見えています。此を「川づくりに活かしたい」この想いが三川フォーラム初期には多くの参加者にあっただけだと思います。新政権の下、行政も川に対する従来の進め方を大転換すべきであると思えます。 | |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | 意見を言いっぱなしになって、回答が全くないが、少しは納得する回答をすべきであると思えます。 | |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|--------------------------|---------|--------------|--|--|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | 市民からの要求が多く出されているが、その具体化についての明快な回答がなされていない。できるものは答えて欲しい。 | ご意見承りました。いただいたご意見などは木曾川上流河川事務所のホームページで公表していますが、ふれあいセミナーの開催手法も含めて、今後の参考にさせていただきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | ふれあいセミナーは民主体で進めていけばよいとおもう。 | 木曾三川ふれあいセミナーは木曾三川の川づくりに関して地域住民の方々と行政が情報共有することを目的としています。ふれあいセミナーの開催手法も含めて、今後の参考にさせていただきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | もっと数字を使った具体的な図式がほしい。 問題が大きすぎてわからない。テーマをしぼるべきだ。 | わかりやすい説明手法を検討したいと思います。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | 平日でも休日でもOKで要は時間をじっくりかけたいので、昼食や休みをはさんで議論したいし、役所と市民だけでなく俗に言われる学識経験者といわれるその筋の関係者も参加してもらい、司会者は第三者の立場でメディアの人をお願いしてはどうでしょうか。100意見あれば一つ二つは思いもよらない名案・妙案がでるものと信じています。今後の参考にして下さい。 | ご意見承りました。専門的なテーマの際は学識経験者の方をお招きするなど対応したいと思います。また、開催時期、開催場所、広報などを検討し、よりよい意見交換ができるようにしたいと思います。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | ワンド等の水際湿地の再生の課題は下流域でも背割堤のケレップ水制辺りで共通しています。ただ治水や利水の課題に比べると住民サイドの意識はたいへん低調です。そこで例えばこういう課題に絞り込んだ検討会や講演会など、官・学・民等がひとつになって研鑽することを重ねないと理解も盛り上がりも期待できないと思います。上下流のNPO相互でも個別の場所（地点）を想定して再生のあり方等について意見交換してみたいと感じました。 | ふれあいセミナーにより地域住民の皆様が川に関心を持つようになり、川づくりへの意見交換をすることが一つの目的であります。より効果的な会の開催を検討したいと思います。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | 特定外来魚対策の報告は民（木曾三川フォーラムさん）がイニシアチブをとって具体的にフィールドワークとして取り組みを始めたことに対して、エールを送りたいし活動の必要性の説明にも共感しました。市町も全面的に支援されておられるとのこと力強く感じました。その上で（駆除作戦をより効果的にするために）国や県レベルでないとできないような対策（例えば増殖させない調査や研究が）進んでいるのか聞きたいと思いました。 | 外来種や河川環境と外来種の関係について明らかになっていることは限られていますが、シナダレスズメガヤを洪水営力によって消失させるための水理条件や、ハリエンジュ伐開後の萌芽抑制手法等が調査・研究されています。 |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|-----------|--|---|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | 端的に言って、特定外来魚に向き合う国（及び広い地域）レベルでのコンセンサスが未だ得られていないと感じています。TVの釣り番組等では時々バスフィッシングが流されているし一方漁協など被害を受けている立場から駆除促進を訴える番組が流れたりしています。広い国民の意識や利害の異なる立場の主張に対しては国はどうジャッジしているか今ひとつわかりにくいですね。 官民双方で時間をかけてでもきっちりと方向付けていくことが必要だと思います。 | 外来生物による在来の生態系や人の健康、農林水産業の被害を防止することを目的に、「外来生物法」がH17.6より施行されたことに伴い、特定外来生物として指定された種の個体（種子等を含む）又はその器官について、飼養、栽培、運搬、譲渡などが原則禁止されるとともに、野外に既に存する特定外来生物の防除が進められることとなりました。 河川管理者である国土交通大臣はオオキンケイギク等陸生植物5種の防除を行う主務大臣となっています。河川管理行為などに関する工事などを請け負う者に対して、できるだけ外来生物法の理解の促進に努めること。河川法に基づく占用許可を与える際（更新を含む）には、占用者に対してできるだけ外来生物法の理解の促進に努めること。河川管理行為等と連携した取組みを実施する市民団体等に対して、できるだけ外来生物法の努めることとしており、木曾川上流・下流事務所においては、直轄管内の特定外来種マップを作成し公表しております。（詳しくは事務所ホームページをご覧ください） |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | 木曾川の流域に目を向けた地域交流であるとか、上下流の交流が大切であると考えている。 | ご指摘のように、河川を流域で考えることが重要と考えています。自然再生計画につきましては、木曾川上流河川事務所の管内での策定となりますが、木曾川流域全体で策定した「木曾川水系河川事業整備計画」をうけた検討を実施しています。 上下流の交流としましては、昨年、源流シンポジウムが木祖村で行われたり、NPO法人が主体となった上下流交流を行うなどして流域全体での情報交換等を行っています。また、地域住民が参加した川と海のクリーン大作戦など住民参加と連携による木曾三川を軸とした地域作りを行っていきたくと考えており、ご協力をお願いします。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | 雄総川の事例報告されましたが、実態を知る上で非常によいのでこのような具体的なものもよい。 | 9月27日から10月25日までの毎週日曜日（計5回）にわたって木曾三川フォーラムさんが外来魚駆除活動を行います。実施報告をふれあいセミナーで行っていただく予定です。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | 平成20年8月30日に木曾の源流を訪ねる機会がありました。木祖村で開催の全国的な会議でした。村全体でお客をむかえる熱心な対応に感激しました。小学生から中学生と皆様が役を引き受けて村全体の一大イベントとして活動してみえました。 ◎要するに地域ぐるみの活動でないと一部の人だけでできるものではないと思います。木曾川の件でも一部の人は熱心ですが、多くの人にいかにお出向していただけるか考えたいものです。 ◎木曾川上流事務所だけではムリで、国交省もだすべきだ。 | ふれあいセミナーでの意見交換により地域住民の皆様が関心をもたれるようになることが一つの目的であります。より効果的な会の開催のために検討したいと思います。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 河道内樹木について | 近年河川内の樹林が目立つような気がします。伐開するにも費用がかなりかかるとは思いますが、背丈が低い時期に判断されれば、伐開費用も少なくてすむと思います。 | ご意見承りました。限られた予算の中で有効的な伐開手法を検討していきます。 |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|----------------------------------|---|---|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | その他 | ご存じの事でしょうが名古屋市の新市長が導水路反対表明していますが名古屋市民の私らはパフォーマンスとらえています。何故ならば行き届いた社会整備にどっぴりつかっている自分自身こそ先人が後々の事を考え先行投資整備されたお陰であるとする必要ありと思います。導水の水をどのように使うか議論する段階だと思う。特に今日のように局地豪雨や干ばつの顕著な時代、色々な河川では水系毎にダムからダムへバイパスを作って有効利用の事例は多々あるが、流域をまたぐバイパスこそ今後求められる水の有効利用方法であると思います。ルート沿川では1次産業（労働力集約型）果樹などの農業に適した土地が沢山あるが、水の運用がままならないため開拓されないと思います。果実こそ今後岐阜県のブランド輸出品になると思います。 | ご意見承りました。子どもたちのためにも、将来を見据えた事業を地域の皆さんと共に考え、実施していく必要があります。今後の参考にさせていただきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | その他 | 外来魚の話が長い。身内のお話は適当にして欲しい。駆除できないのに無駄なことをしてよこんでいる。自己満足のお話しはほどほどにしてください。 | 確かに、これらの活動で特定外来魚を完全には駆除することは、なかなか困難です。しかし、外来魚の駆除について、行政としてはなかなか事業化することができないため、このようなNPO等の活動が大切でありまして、このような活動や意識をどんどん広げることにより達成されるものだと思っていますので、決して無駄や自己満足とは考えていません。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | その他 (木曾三川フォーラムの特定外来魚駆除資料について) | 調査された貝について、ドブガイの記載があるがカラスガイ（学名）にして欲しい。（聞こえが良くないため） | ご意見承りました。（木曾三川フォーラムより） (後日調べたところ、ドブガイはイシガイ科ドブガイ属、カラスガイはイシガイ科カラスガイ属で違う生物とわかりました。) |

第6回木曾三川ふれあいセミナー 主なご意見

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|---------------|---|---|
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 可児市総合会館 | オオキンケイギクについて | 新川ではオオキンケイギクはキレイだからということで住民が植えたりしている。 | オオキンケイギクは在来種に影響があるということで、特定外来種に指定されていますので、育てたり種をまいたりすることは法律で禁止されています。オオキンケイギクは育ててはいけないことを知っていただくようにしなければいけません。（国土技術政策総合研究所） |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 可児市総合会館 | オオキンケイギクについて | 駆除手法でオオキンケイギクを抜くのに手でつまんで抜いているのか？何か工夫された道具を使っているのか？ | 最初は手で抜いて、大きなものはシャベル行っています。根茎がより抜きやすくなるようなこととか何か改良することができればもっと効果がでるのではないかと思います。（国土技術政策総合研究所） |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 可児市総合会館 | オオキンケイギクについて | ススキが生えている箇所はオオキンケイギクは侵入していない。オオキンケイギクに負けないススキ河原にしよう。ヤナギ類を植えたり、セイタカアワダチソウとケンカさせるなどという方法もあるのではないかと。 | 河原植物を増やしたいところ以外は、ススキやチガヤに頑張ってもらうとか在来種も活用していく方法はいいのではないかと考えています。（国土技術政策総合研究所） |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 可児市総合会館 | 特定外来魚駆除実験について | 東海環状道路のインターの工事で二枚貝保護のため（中池に）移動させたという話を聞いた。その中池が現在では多くの外来魚が侵入している。名古屋では6箇所の池調査を行って、たくさんの外来魚がいた。岐阜の皆さんもがんばってください。 | 来年も引き続き特定外来魚駆除活動を行う予定です。その際にはぜひ皆様のご援助をいただきたいと思います。（木曾三川フォーラム） |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 可児市総合会館 | 特定外来魚駆除実験について | あるダム湖ではブルーギル等の駆除に、電気ショックというバッテリーで仮死させて採るということを実験的にやっている。 | 効果的な駆除方法をいろいろ教えてください。（木曾三川フォーラム） |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 可児市総合会館 | 特定外来種について | 特定外来種の駆除は重要なテーマ。ぜひ続けて欲しい。 | オオキンケイギクやブラックバスなどの特定外来種の駆除は、行政としてはなかなか事業化することができないため、このようなNPOや市民の皆様等の活動が大切であります。このような活動や意識をどんどん広げることにより達成されるものだと思います。 |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 可児市総合会館 | 木曾川渡し場遊歩道について | 竹の病気であるテングス病対策は何かされているか。テングス病には有効な薬がないため、病気になった竹は切り倒して燃やしやすい。チップにすると他の竹へ伝染してしまう。 | 病気になった竹はどんどん伐採して、新しい竹を保全しています。（木曾川左岸遊歩道友の会） |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 可児市総合会館 | 木曾川渡し場遊歩道について | 遊歩道友の会からの説明に、整備や維持のために伐採した竹を利用して、竹チップを歩道に敷き詰めたりしているが、その他利用方法はないか。 | 竹のチップは抗菌作用があるため馬小屋の下に敷き詰めるなどしたりしています。また、竹炭にしたりしています。（風と土の会） |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 可児市総合会館 | 木曾川渡し場遊歩道について | ボランティアであれだけ立派な遊歩道を作られたのは、すばらしいと思います。竹チップの馬への利用は良いと思います。 | 行政においても伐採した竹などの処分費の問題があり、なにか有効活用できないか苦慮しているところです。 |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 可児市総合会館 | 地域の活動について | 竹林整備は県内でもなかなかうまくいっている事例が少ない。広く成功事例のPRをお願いしたい。 | 地元の新聞やテレビで取り上げられたり「手づくり郷土賞」への応募など積極的に独自にPRをされていると承知しています。今回のふれあいセミナーでも多くの方が興味を持たれています。また、鉄道会社の散策企画の予定ルートになっていたりとその活用方法や知名度はどんどん広がっています。 |

第6回木曾三川ふれあいセミナー 主なご意見

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|--------------------------|---------|--------------|--|---|
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 可児市総合会館 | 地域の活動について | 大変な事業に感心しています。 | 地域の皆さんが問題意識をもたれて、積極的に活動されていることについて、我々行政としても出来る限り協力していきたいと思えます。 |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 可児市総合会館 | 地域の活動について | ○各ボランティア団体の活動資金の確保について 1. 各団体からの助成 2. イベント参加して参加費をいただく 3. 学校の総合学習の教代として少し頂くなどいろいろ工夫して資金集めるなど努力している。 | 活動を行うために、企業や団体からの助成や賛助、組織の会費からの捻出など努力されているようです。 |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 可児市総合会館 | ふれあいセミナーについて | 毎回参加していますがとてもいい企画行事です。今後もつづけてください。 | ありがとうございます。 今後も引き続きふれあいセミナーをタイムリーに実施して、地域の皆様と情報交換・意見交換したいと考えています。 |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 可児市総合会館 | ふれあいセミナーについて | 今後も土日を利用した勉強会を開催して欲しい。 | 今後も引き続きふれあいセミナーをタイムリーに実施して、地域の皆様と情報交換・意見交換したいと考えています。 |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 可児市総合会館 | ふれあいセミナーについて | 会場での質疑応答のみだと時間的にも限られるので、事前にテーマに沿った質問をメールで受けつけておいて、適宜回答に加える工夫もあるか。 | ご意見ありがとうございます。より効果的な開催手法について検討したいと思います。 |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 可児市総合会館 | ふれあいセミナーについて | 勉強になるセミナーでした。スタッフの皆さんありがとうございました。 | ありがとうございます。 河川に関する様々な問題が、ふれあいセミナーでの情報交換・意見交換により、少しでも良い方向に進むことを期待します。 |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 可児市総合会館 | ふれあいセミナーについて | 運営資金の捻出方法はどのようにしていますか。 | ふれあいセミナーは河川管理者が呼びかけ人となって行っています。ポスター・チラシの作成や関係機関との調整・依頼など全て木曾川上流河川事務所の職員が行っています。 |
| 第6回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 可児市総合会館 | ふれあいセミナーについて | ふれあいセミナーはすごくいいと思いました。また参加します。 | ありがとうございます。 ぜひ参加して下さい。 |

第7回木曾三川ふれあいセミナー 主なご意見

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|--------------------------|------------|--------------|--|--|
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | ふれあいセミナーについて | 木曾三川下流事務所関係の各種団体へ案内はでているのでしょうか。年に1、2回のこうした意見交換の場です。交流会の場としても良いことです。ぜひ合同開催をお願いします。 | 木曾川下流河川事務所へは毎回情報提供しています。合同開催については今後検討したいと思います。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | ふれあいセミナーについて | 河川に関するステキな活動を詳しく楽しく聞かせていただき大変有意義でした。もっと他の活動の紹介を希望します。 | 定期的に地域で活動されている方々の紹介ができる場を設けるよう検討したいと思います。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | ふれあいセミナーについて | もっとオープンにして活動がイベント中心にならないように。 | 企画内容について検討したいと思います。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | ふれあいセミナーについて | 河川の活動事例を紹介する「ふれあいセミナー」も結構ですが、現在（今年度）の河川整備状況や近々の整備内容等を示してもらいたい。 | 企画内容について検討したいと思います。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | ふれあいセミナーについて | セミナーも出来るだけ現場で実施して欲しい（現場体験も含めて） | 開催内容については検討したいと思います。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | ふれあいセミナーについて | このような市民団体の良い取り組みを紹介する場は大変良いと思いました。今後も続けて欲しいです。ふれあいセミナーは遠くから出てきている人も多くいるので2時間ではなく半日程度かけてやって欲しいです。 | 開催時間及び開催内容については検討したいと思います。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | 地域活動について | 山のひとしづくから、海へといわれている川づくりにおいて、やはり大切なことは各河川、地域において活動している団体、一般市民の方、企業、行政等の連携、協働であると思います。団体間の交流活動や、情報交換などネットワークづくりに力を入れていきたい。 | 流域全体に関わる問題などは、市民、各団体、企業、行政の連携協働が必要不可欠ですので、交流、情報交換などの活動が活発に行われていくことを期待します。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | 地域活動について | 不法投棄が河川敷にあるのをよく見かける。大変悲しいことと思う。きれいな川、景観をこれからも守るボランティアに参加していきたい。 | ありがとうございます。地域の皆様の活動が不可欠です。今後ともよろしく願います。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | 地域活動について | 本日参加された団体の活動が良く理解できました。活動内容は感動的なものであり今後、このような諸団体との関わり方を考えて協力できることを探したい。 | ふれあいセミナーが情報交換の場だけでなく、各団体との交流の場にもなっていることを多くの方からお聞きします。ますますつながりが広がることを期待しています。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | 地域活動について | 三川での体験活動を通じて、三川のそれぞれの特徴がつかめ活動に何が必要かが理解できる。それぞれの地域でゴミのボランティア活動の組織を立ち上げて美しい川づくりができるとよい。 | 各地域で活動されている方々とのつながりや新たな組織とのつながりなどが大きくなることで様々な課題が解決されていくと思います。 |

第7回木曾三川ふれあいセミナー 主なご意見

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|----------------------------|------------|-----------------|---|--|
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | 地域活動について | 各地区で川づくり或いは地域活動している団体名称の一覧とその活動状況のわかる資料もまとめて欲しい。 各団体への資金補助を実施している企業、団体、協会等を教えて下さい。 | 下記サイトなどで確認することが出来ます。 http://www.npo-hiroba.or.jp/ http://www.npo-homepage.go.jp/search/index.html |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | 地域活動について | 清流を守るには地域住民の意識の向上が必要ではないかと思います。下水の完全施行など行政のご指導が必要かと考えます。 | 環境問題などは流域全体で問題意識を共有しなければいけません。 地域住民の意識の向上に努めたいと思います。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 木曾川上流河川事務所 | 河川利用について | 子供達が川に近づけない現状の中 川を知ってもらうことは大変難しい。 子供達に川を知り川の楽しさを身をもって体験できるフィールドの整備を急いで下さい。 | 河川の利用状況に応じた整備を地域の方々、関係自治体などと検討していきたいと思います。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー 会場でのご意見 | 木曾川上流河川事務所 | 風と土の会の活動について | 竹林を活用した活動での問題点や苦労したことを教えて欲しい。 | 時にはないが、イベントを行う際に少し苦労がある程度である。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー 会場でのご意見 | 木曾川上流河川事務所 | 風と土の会の活動について | 竹林そのものを取り除いてしまえば維持管理する必要はないと思うが、大切に維持管理している理由を教えて欲しい。 | 堤防道路からの景観という観点からも適切な維持管理が必要である。 |
| 第7回木曾三川ふれあいセミナー 会場でのご意見 | 木曾川上流河川事務所 | 全国豊かな海づくり大会について | これまで海づくり大会に向けて様々な取り組みがなされているが、海づくり大会終了後の岐阜県としての取り組みは何か検討されているのか。 | 清流国体が平成24年度にあるため、継続的に進めていけるようにしていきたい。 |